

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

ピリカとは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です。

第2回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成19年3月22日(木)18:00より、むかわ町・四季の館において、「鵜川・ピリカ・プロジェクト～美しい川をめざして～」の第2回会議が開催されました。17名の委員が出席しました。

話し合ったこと

1. 鵜川流域の概要

事務局より鵜川流域の概要を説明しました。

〈主な説明項目〉

- ・ 流域の状況
- ・ 流域および河川の自然環境
- ・ 流域の社会状況
- ・ 水害と治水事業の沿革
- ・ 河川利用の現状
- ・ 河道の変遷

2. 意見交換

今後、会を進めていく上で、委員相互や河川管理者との間で、共通の認識を持つことが重要と考えられるため、意見交換が行われました(※1)。

(1) グループ討議

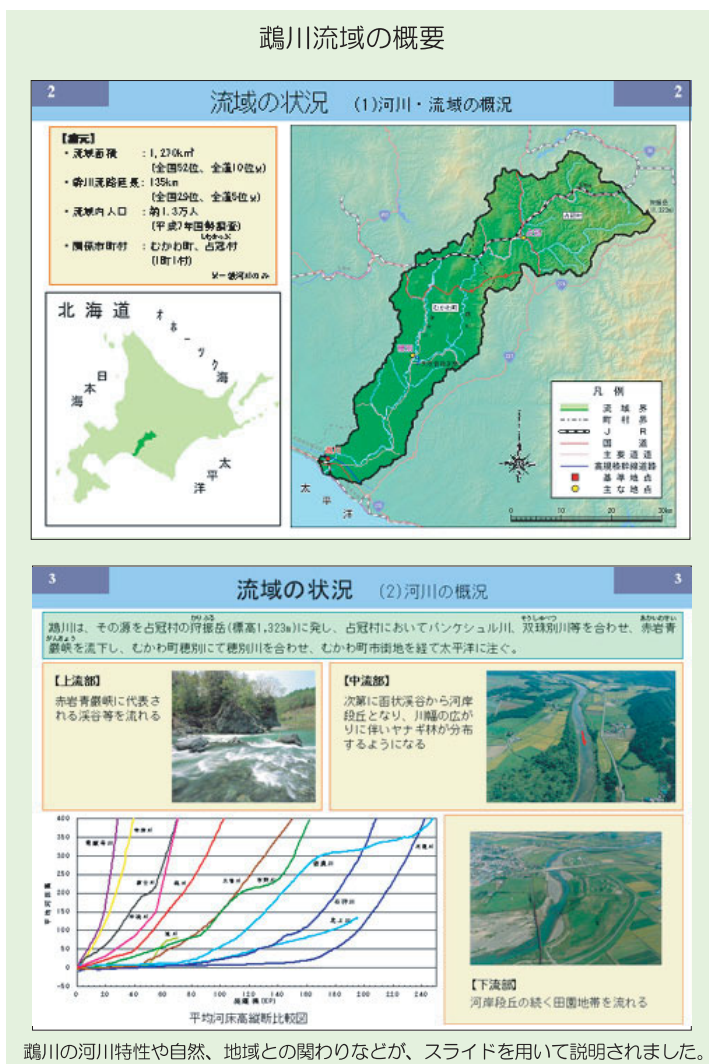
委員の方々が活発に意見交換できるよう、まずは2グループに分かれ、ラベルワーク形式(※2)で討議を開始しました。テーマは、①「情報の共有」(過去から現在の鵜川の情報)と、②「鵜川への思い」の二つでした。

(2) 全体討議

グループ討議で意見交換した結果を各グループの代表者が発表した後、これらを踏まえた全体討議へと進みました。

※1. 詳細は裏面に記載

※2. 情報や意見を付箋に書き込み、地図に貼り付けながら意見交換する方法。



意見交換の詳細

1. グループ討議結果

グループ討議で提出された意見は、下記のようなものでした。

(1) 「情報の共有(過去から現在の鵜川の情報)」(第2回意見より抜粋)

- ・ これだけ大きな川だが地下水はない。
- ・ ムレトイの丘にてシシャモカムイノミ(シシャモ漁の前に行われる豊漁を祈る儀式)を行っている。
- ・ 仁和～栄の渡し舟があった。
- ・ タンポポ公園で昭和30年海水浴をした。
- ・ 生田小学校付近でカワセミを観察できる。
- ・ オオワシ、オジロワシ一斉調査で今年は11羽を確認。
- ・ キナウス川はアイヌ語でキナ(草)・ウシ(生えている)の意味。
- ・ 以前は、生田小学校から家に帰るときは、橋を渡らず川を泳いで行ったということだ。
- ・ 小学生の頃はオピラル川付近は水量が多くとてもきれいで、ヤマメがよく釣れた。
- ・ ニニウ地区までサケが遡っていた。
- ・ 平成18年3月、穂別川の結氷が流下し、鵜川との合流点に初めて押し寄せた。
- ・ 昭和37年、占冠中央地区が出水により浸水し、自衛隊が災害復旧派遣された。

(2) 「鵜川への思い」(第2回意見より抜粋)

- ・ 川は山に木がなければ、美しく恵みをもたらす川とならない。山に木を！
- ・ シシャモが生育する川であり続けるよう、皆で力を合わせよう。
- ・ 森を育てる事、清流鵜川を人が自慢できるように話をしていく。
- ・ 珍川の”珍”は、アイヌ語で汐見という意味だと伝えたい。
- ・ 環境にやさしい施業(林業)方法を取り入れ自然保護に努める。
- ・ 子供をつれて、気軽に川と親しめる場が多くあれば良い。
- ・ 流域住民の川に対する意識がもう少し高まる何かがあればよい。
- ・ 2.7haの人工干潟を育てたい。
- ・ 川の近くにはアイヌ民族の集落が昔からあるので、こうした文化を川と共に伝えたい。
- ・ 貴重な自然(サクラソウやニホンザリガニ)はきちんと残したい。
- ・ 美しい川ということでPRを含め、地域イベントを盛んにしていければいいと思う。
- ・ サクラマスに戻したい。

2. 全体討議

グループ討議終了後、各グループの代表者から結果発表と総括が行われました。また、全体で意見や感想を述べ合いました。

(1) グループ討議総括

- ・ 川、海、森全体を守っていききたいという意見が多かった。
- ・ サクラソウ、ニホンザリガニ、ヘイケボタルなど貴重な自然が残っている一方で、干潟の消失とそれに伴うアイヌ史跡の消失などもある。これから河川全体の様子を見ながら皆で考えていく必要があるとの認識を共有した。

(2) 全体を通じての感想(第2回意見より抜粋)

- ・ 鵜川をどうやってきれいにし、昔の状態に戻すかの思いが見えた。
- ・ 色々知らない事も分かった。自分は鵜川の生まれではないが、これからも色々なことを発信し、また、共有したい。
- ・ みなさんは、特に「昔の川に戻したい」「環境に関心がある」といった意識が高いと感じた。
- ・ 求めている鵜川は昔の姿の鵜川である。一級河川鵜川を発信するにはどんなやり方がいいか提言できる会にしていきたい。

